

第3回

みんなで育ちあう保育創造の為にⅢ～保育者の悩み・質問から学ぶ～



講師 岡村 由紀子 氏

0・1歳児

Q1 0・1歳児合同の保育の場合、保育室の環境設定（0歳児が1歳児の玩具を口に入れてしまう場合があります）の注意点を教えてほしいです。今は危険のないように保育士同士で声を掛け合っています。

- ・子どもの動線のみて、環境を仕切る（ロッカーや段ボールで仕切りを作るなど）もあります。また、時間によっておもちゃを変えるなど子どもの姿で考えることもあります。

1歳児

Q2 痙攣もちで、思い通りにならないと泣き叫んで、保育士の声が耳に入らない状態になります。また、急に後ろにひっくり返ることがあり、散歩時に道路で後ろにひっくり返ったこともありました。このような時にどう対応したら良いのか困っています。

- ・保育場面は、子どもの心にぴったりの声をかける事で、安心が生まれ、子どもは、声をかける大人に信頼を寄せます。その積み重ねで大人の言う言葉が伝わりやすくなる状況が生まれるので、安定してきます。基本は、共感的な言葉かけが大切です。
- ・「急にひっくり返るほど激しい」という事は、家庭でもあるのでしょうか？一度園の事実をお伝えしながら、「けがになったら心配だから」とかかりつけ医に聞いてもらうのもいいのではないのでしょうか？そのことで、子どもの中に課題があることが分かったケースもあります。

Q3 嚥下機能が未発達で、食事はミルクを提供しています。自由に体を動かさせないためか、機嫌が悪くなると十分な量のミルクを飲めないことがあります。水分が十分にとれず、離乳食期の子とはまた違う対応のため、心配になることがあります。

- ・「園では、こういう状態だからこういう対応をしています。」という事実をお家にお伝えして、園で心配な点を伝え、「このままの対応でいいのか？」を一度かかりつけの医師に聞いてほしいとお伝えしたらどうでしょうか？そして、医師や親の考えを知り、その上で、園と親がそれぞれ「何ができ、何ができないのか」「不慮のけがを防げない状況の時は、どう考えるか？」などをそれぞれが考え伝え合い、合意ができるまで一緒に「子どもにとって一番いい方法」を見つけ出していくことが大事ではないでしょうか？言い換えると、子どもを真ん中に何ができるのか？子どもの最善の為に親とパートナーになっていくという事ですね。

Q4 少しでも思うようにならないと大きな声を出して、物を投げます。本児の思いを受けとめながらも、やっていいことと悪いことは伝えているが、そのような対応で良いのか迷いがあります。噛みつきがある子に対しての適切な対応も教えていただきたいです。

- ・思いを受け止めた後、子どもが切り替えていくことが大事ですね。
- ・「かなえられない」気持ちを自己コントロール出来

ないから叩いたり、噛みついたりをするのですね。共感的指導の先に「違う楽しさ」が見通せる指導の2つがあると、我慢という切り替えが育ちやすいですね。一緒に歌いながら待つ、違うおもちゃを出す、他の遊びを提案する、色々です。

- そして、落ち着いてきたところで、「お友達痛いって泣いているね。叩くのは、出来ないね」とか「欲しいときは、かして！だね。噛むのは出来ないね」と不適切な行為を変える行動を伝えると大人の言葉が入り易く、学びになります。

Q5 自己主張とイヤイヤ期の子どもに対して、保育者と子どもの間でどこまで受け入れたらよいのか教えてほしいです。妥協点を見つけることの難しさを感じています。

- 基本は、「欲しかった」「やりたかった」という子どもの気持ちはしっかり共感し受け止めていきます。その上で、不適切な行為へは、行動の学びになるように声を掛けます。

Q6 アレルギーの除去食の対応の注意点を教えてほしいです。

- まず年齢によっても違いますね。乳児は、大人が物理的に隔離する環境（席を離す・食器を変えるなど）を作る事が求められます。幼児期は、自己認知の力も育ってくるので、「自ら口に入れない」経験が大切です。

Q7 生活習慣は身につく、言葉も少しずつ増えてきていて発達に遅れなどはないが、友達に対して手が出てしまいます。特に顔をひっかく、噛みつくなどの行為があります。穏やかに遊んでいることもあるが、急に手が出ることもあるので、保育士の目が離せません。

- やりたいことがはっきりしてきている（自我）が育ってきているからこそ、とても大事な心の育ちですね。ただ周りの大人は、「困った」「大変」なことが多くなりますね。
- 禁止語や否定語が多いと、質問のような姿が、強く出てきます。
- 保育は、体を十分に発揮出来るような活動、楽しい保育活動を保証する工夫が必要です。楽しい活動の時、子どもは、発達をします。

2歳児

Q8 保育士 A を求め、常に一緒にいないと落ち着きません。掃除や書類等で保育室から離れると後を追う姿が見られます。他の保育士があそびに誘うが、保育士 A への執着が強く、他の保育士がどう接して良いか困ってしまう時があります(保育士 A が休みの時は、本児が保育士 A を求めることは一度もない)。

- A 先生には、安心が感じられるということですね。そこを土台に周りにも広げて安心感を育てたいですね。それには、関わるスタッフで対応を同じにすることが求められています。
- 今落ち着いている A 先生の関わりの何が、その子どもにとって落ち着くのか？の共有です(例えば、ゆっくりだよね。いつも目を合わせているよね。声が穏やかだよね、などなど…)そして、同じ対応にします。
- そして、もう一つが立ち上がるためのその先の保育の指導です。「A 先生に会いたいね。はやく来るといいね」と気持ちに共感しながらも(日頃の子どものご機嫌な活動を手掛かりに)「このバケツもってお水いれようか？」とか大好きなままごとコーナーに行き、目先に違った風景を取り込むなど・・・です。

Q9 時と場合にもよるが、2 歳児でも抱っこを求められます。抱き癖が心配になることがあり、抱っこについて聞きたいです。

- ・抱き癖は、大人の都合で抱く行為の中で育つものですね。子どもが求めたらいっぱい抱っこしてあげるといいですね。幼児期であっても学童期でも同じですね。
- ・アタッチメントの形成の中で言われる抱っこは、抱き留めあいと言われて大人も子どももお互いが気持ちでつながっているという質です。求められた時は、ぎゅっと「私も！」という気持ちで気持ちを、つなげてくださいね。

Q10 双子を同じクラスで保育しています。双子が集まると動きも 2 倍で活発になります。1 人だと落ち着いて過ごせるので、保育行動を別にした方がよいと思うこともあります。双子の対応のポイントをアドバイスしてほしいです。

- ・2 人だと阿吽の呼吸のごとく一致して大きくなるのでしょうか。決して一概にマイナスになるということではないですね。ただ 2 人でいると、どちらかが遠慮する・一方的になっている・あそびに広がりがない・周りの子が入ってこない・逆に 2 人だけで遊ぶなど、人間関係や遊びの豊かさ・コミュニケーションが狭くなるようなら保育の中にグループを作ったり（散歩先を変える・食事グループを作るなど）異年齢の活動など違う出会いを創ったりしても良いかもしれませんね。どんな視点が気になるのか？ですね。

幼児

Q11 衝動的に行動してしまう子に、危険な行動を起こした後の注意が多くなってしまいます。できるだけ、注意や抑止をしないようにしたいと思っています。事前にできる対応を知りたいです。

- ・（見える）行動や行為に振り回されずに、行為の奥にある本当の思いや考え（見えない）にぴったり声をかけましょう。
- ・乳児は「ほしかった？」など代弁です。幼児は「どうした？」「欲しかった？」等、子どもの今の心にぴったりの言葉を見つけ出すお手伝いをします。分からないときは「困っている？」と聞くといいですね。
- ・次に相手の状況を理解する言葉を伝えます「使っていたおもちゃ取られて嫌と泣いているよ」「叩かれていたいと泣いてるよ」など他者理解のチャンスにします。
- ・次に「じゃあ、こういうときどうすればいいのかな？」と周りの子と考えたり、「今困っているんだけど」と周りの子を呼んで一緒に考えていったりしていくことですね。このことで、個と集団の発達があります。
- ・この繰り返しの中で子どもは、感情にふさわしい言語を学び行動から言語表現に変化していきます。

Q12 支援が必要な子に対応が偏ってしまい、他の子に対して十分に関わることができないことがあります。支援が必要な子についてクラスの子どもたちへの伝え方を知りたいです。また、支援が必要な子や他児とも十分に関わっていくための職員同士の連携の仕方も教えていただきたいです。

- ・個と集団の発達に大切な対応が上記の Q11 の対応です。これは、何かあった時保育者と当人で行うのではなくそこに暮らす仲間がみんな「どうしたら居心地がよく安心して楽しいクラスになるのか？」を考えていく実践です。
- ・中でどの子も、どんな時も気持ちを聞いてくれる（安心）、でもそれは手を出したらだめで言葉で言わなければいけないこと（自己コントロール）、そしてその方法をみんな考える（合意形成能力）

力が育っていきます。

- ・保育は、個と集団の両方向に指導が同時に求められています。こうした対応を保育者集団で共有されることが連携に繋がっていきます。

Q13 子どものありのままの姿を伝えていきたいと思っているのですが、すべてを伝えることで落ち込んでしまう保護者もいます。保護者への丁寧な伝え方や保護者と園との連携の仕方を教えていただきたいです。

- ・子どもを真ん中にパートナーになった時、子どもは幸せになりますね。
 - ・日常親の見えないところで生活している子どもの姿は、親に伝わりにくく、ノートやクラスだよりなどを使ってどんな保育を受けているのか？を伝え信頼を構築することが必要ですね。
 - ・その上で、親にとって落ち込むようなことであっても
- 1、事実を伝える（感想などを入れず）。
 - 2、その上で、その時保育者は何をしたのかを伝える。
 - 3、そして、これからこうしていこうと思う関わりを伝える。
 - 4、おうちではこんなことができますか？等おうちでやれることについて一緒に考え伝える（例：落ち着かない。おうちで食事場面はどうですか？等聞いて困っていたら「席を立ったらご馳走様？」と聞いて「まだ」と言ったら「じゃあ、座って食べるんだよ」と伝えることも我慢する力が、生活で育っていきますからやってみてくれますか？と伝えていく。
- ・大切なことは、困っていることを園と親と一緒に越えていこうという姿勢を伝えて共有することで

Q14 話を聞く際、目を見るまでに時間がかかり、周りに気がそれてしまうため、聞き逃してしまっていることが多い子の対応について教えていただきたいです。

- ・環境を作る（好きな子が、隣にいるや先生の前に座るなど）ことがあります。
- ・なぜそこに集まって話を聞かなければならないのか？言い換えると「今から楽しい話なんだよ」「聞きたいなー」と言う子どもの心に「話を聞く」動機付けるような言葉をはじめにかけると集中が違ってきます。子どもは、楽しいことに関しては、我慢ができます。

Q15 全体への指示が通らず、前もって先に指示を出しても、次への行動が最後になってしまう子への対応について教えていただきたいです。

- ・見通しがつきにくいのでしょうかね。
- ・短くひとつずつ「〇〇したら〇〇だね」「〇〇したら〇〇できるね」というように伝えるのも大事です。そして、出来たら『出来たね、素敵だね』と伝えて行動の見通しを作るところを支えるといいですね。

第3回 焼津市保育者資質向上研修会
令和3年8月20日（金）
新型コロナ対応のため、紙面による開催